

新規事業採択時評価結果（令和5年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 環境安全・防災課  
担当課長名：高松 諭

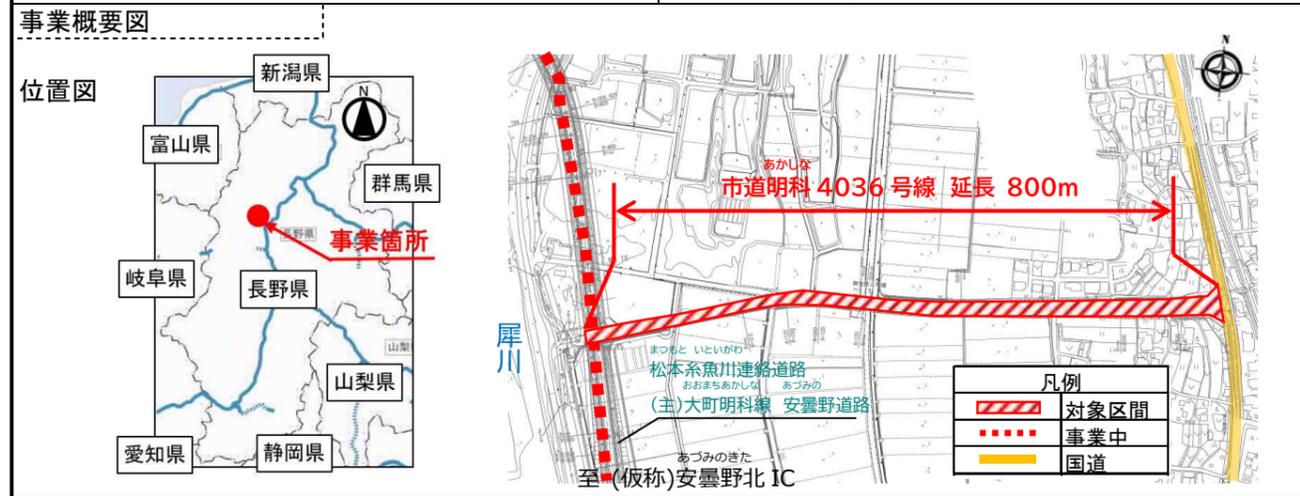
事業の概要

|     |                                  |      |        |      |      |
|-----|----------------------------------|------|--------|------|------|
| 事業名 | 地高ICアクセス<br>市道 明科4036号線 明科中川手    | 事業区分 | 地方道    | 事業主体 | 安曇野市 |
| 起終点 | 自：長野県安曇野市明科中川手<br>至：長野県安曇野市明科中川手 | 延長   | 0.8 km |      |      |

**事業概要**  
市道明科4036号線は、現在事業中の地域高規格道路 松本糸魚川連絡道路 主要地方道大町明科線 安曇野道路と一般国道19号を結ぶアクセス道路であり、主に明科地域（北東方面）へのアクセスにより明科地域周辺から長野自動車道へのアクセス性が向上し、交通の円滑化を図ることを目的として安曇野市明科中川手の延長約0.8kmを整備するものである。

**事業の目的、必要性**  
当該路線を安曇野道路と一体的に整備することにより、長野自動車道へのアクセス性が向上し、混雑緩和されることで走行性・安全性の向上が期待される。  
また、明科地域からの救急医療施設への搬送時間が短縮されることで、救命活動等の効率化が期待される。

|       |       |       |          |
|-------|-------|-------|----------|
| 全体事業費 | 約11億円 | 計画交通量 | 7,000台/日 |
|-------|-------|-------|----------|



**関係する地方公共団体等の意見**  
 ・第二次安曇野市総合計画及び安曇野市都市計画マスタープランに位置付けられている。  
 ・「松本糸魚川連絡道路建設促進期成同盟会」等各団体から早期整備についての要望活動が行われている。

**学識経験者等の第三者委員会の意見**  
 ・長野県公共事業評価監視委員会（令和4年11月17日）において、新規事業化は妥当であると評価。

**事業採択の前提条件**  
 ・費用対便益：便益が費用を上回っている。  
 ・当該道路と一体的に整備する地域高規格道路 松本糸魚川連絡道路 主要地方道大町明科線 安曇野道路は令和4年度に新規事業化している。

事業評価結果

|        |             |   |  |  |             |
|--------|-------------|---|--|--|-------------|
| 費用対便益  | B/C         | 3.0   | 総費用 : 8.5億円<br>事業費 : 8.4億円<br>維持管理費 : 0.04億円 | 総便益 : 25億円<br>走行時間短縮便益 : 15億円<br>走行経費減少便益 : 8.6億円<br>交通事故減少便益 : 1.7億円          | 基準年<br>令和4年 |
|        | 感度分析の結果     | 交通量変動   | B/C=2.7 (交通量 -10%)                           | B/C=3.3 (交通量 +10%)   |             |
|        |             | 事業費変動   | B/C=2.7 (事業費 +10%)                           | B/C=3.3 (事業費 -10%)   |             |
|        | 事業期間変動      | B/C=2.8 (事業期間 +20%)   | B/C=3.1 (事業期間 -20%)                          |  |             |
| 事業の影響  | 自動車や歩行者への影響 | 評価項目  | 評価   | 根拠   |             |
|        |             | 渋滞対策  | ◎  | ・安曇野道路の中間ICへのアクセス路が確保されることにより、渡河部に集中する交通が転換することにより、渋滞緩和が期待。                    |             |
|        |             | 事故対策  | ◎  | ・安曇野道路の中間ICへのアクセス路が確保されることにより、渡河部に集中する交通が転換することにより、事故減少が期待。                    |             |
|        | 歩行空間        | —   | ・注目すべき影響はない。                                 |  |             |
|        | 社会全体への影響    | 住民生活  | ◎  | ・安曇野赤十字病院（第二次救急医療施設）への搬送時間短縮により医療環境の充実と連携強化が期待。<br>[明科地域→安曇野赤十字病院の搬送時間 約11分短縮] |             |
|        |             | 地域経済  | ◎  | ・周辺地域からの長野自動車道へのアクセス性が向上し他地域との往来が増え、交流及び連携強化が図られ沿線地域の地域活性化に寄与。                 |             |
|        |             | 災害  | ○  | ・安曇野道路から緊急輸送路（国道19号）へ直結する道路として迅速かつ円滑な救援・復興活動に寄与。                               |             |
| 環境     |             | —   | ・注目すべき影響はない。                                 |  |             |
| 地域社会   | ◎           | ・周辺地域からの長野自動車道へのアクセス性が向上し他地域との往来が増え、交流及び連携強化が図られ沿線地域の地域活性化に寄与。  |  |  |             |
| 事業実施環境 | ○           | ・「松本糸魚川連絡道路建設促進期成同盟会」等各団体から早期整備について要望が寄せられている。<br>・当該道路と一体的に整備する地域高規格道路 松本糸魚川連絡道路 主要地方道大町明科線 安曇野道路は令和4年度に新規事業化している。 |  |  |             |

採択の理由

事業主体である長野県安曇野市が実施した評価結果に基づけば、費用便益比が3.0と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。  
 また、長野自動車道へのアクセス性が向上し、混雑緩和による走行性・安全性の向上等が見込まれることから、当該事業の整備の必要性・効果は高いものと判断される。  
 以上により、本事業は令和5年度新規事業箇所として妥当であると考えられる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。